

防災活動の最前線の要 地元へ根付く町消防団

「地元」の分団があるから、本町の消防団が成り立っています。訓練ももちろん大切ですが、団員同士のつながりを大切にして地元分団の力を結集し発揮してほしいです」と語るのは、町消防団長の上野



上野 浩信さん
Ueno Hironobu

〔横田区〕

うえの ひろのぶ / 町消防団長。町の防災活動のために尽力し、約500人の団員の指揮を1期2年にわたって執った。今年の3月末で退団予定。

浩信さん（横田区）。1期2年にわたり、本町の安全・安心を守るために活動する町消防団を束ね、防災活動に尽力。任期中は、通常の消防団活動に加えて各消防設備を整えて団員が活動しやすい

環境づくりに取り組み、本町の防災体制の充実を図った。消防団勤務31年。「入団したてのころは、操法員に選ばれて毎日練習に明け暮れ、地元分団でほかの団員と交流することで、地元のつながりも強くなりました」と笑顔で振り返る。「地域にいるからこそ、いち早く住民の安全のために行動できます。また、普段から地元住民とコミュニケーション

ケーションを取っておくことで、非常時に役に立つことが増えてきます」と話す。「最近、団員の入れ替わりが激しく、人数も減ってきています。本町の安全のためにも団員の防災意識啓発や地域の実情に合った消防団の編成を考えなければなりません」と上野団長が考える課題は重い。「本町は、操法大会でも県大会に出場するなど訓練に力を入れています。これからは水防演習などの実践的な訓練も取り入れて、団員1人ひとりの資質向上を目指します」と話す上野団長。3月29日（日）に開催される町消防団出初式および消防点検では、「町民の皆さんに、訓練と経験とチームワークを兼ね備えた団員たちの勇姿を見てほしいです」と意気込む。今年度で退団する上野団長は、「日ごろの訓練が町の危機を救うことになると意識付けることが重要です。一生懸命に訓練に取り組み、本町のために力を尽くす消防団員魂を引き継いでほしいです」と団員たちにエールを送る。